

柳瀬川（城前橋）における河川生物調査報告書

1. 調査概要

調査実施日	平成 28 年 8 月 19 日
調査項目	底生生物調査、魚類調査
調査時間	9 時 40 分 ~ 11 時 30 分
調査地点	柳瀬川の城前橋付近（住所：所沢市城 185 番地付近） （別紙 2 のとおり）
天候	晴れ
水温	24.5 °C

別紙 1 の表 1 に調査実施状況を示す。

2. 目的

本調査は、次年度以降の公共用水域の水質測定計画を作成するために、水生生物の生息状況等を把握することを目的としている。

また、調査地点周辺に生息する底生生物や魚類の種を把握し、その結果を基に調査河川の水質評価を行い、今後の政策に反映させていく。

3. 調査内容・調査方法

3-1 底生生物

底生生物調査については、「川の生きものを調べよう 水生生物による水質判定（環境省水・大気環境局、国土交通省水管理・国土保全局編）」に記載する水質階級の判定に準じた方法で行った。指標生物については、表 2 に記載した指標生物を用いた。

調査地点は城前橋付近において、概ね水深 30 cm 程度で、かつ、底生生物調査に適すると思われるおよそ 1 m 四方の 3 地点とした。

採集した試料は、種名及び捕獲数を記録した。原則として、その場で調査可能な底生生物は現地で調査記録を行い、調査終了後すみやかに川に戻すこととし、不明な種については、ホルマリンで固定し持ち帰り、同定・計数を行った。また、全種の写真撮影及び調査実施状況の写真撮影を行った。

3-2 魚類調査

本調査は、調査地点周辺で生息する魚類の種を把握することを目的としている。

調査地点は、城前橋付近において、魚類調査に適する 1 地点を選定した。

調査方法は、調査地点周辺で目視及び投網（円周 20 m 未満）を用いて種の同定及び個体数の記録をし、全種の写真撮影及び調査実施状況の写真撮影を行った。また、

重要種（環境省レッドデータ、埼玉県レッドデータ）、外来種の確認も実施した。

なお、本調査はあくまで生息する魚類の種の把握を目的とするので、採集する範囲は調査員が安全上可能と判断する範囲とし、個体数の把握はあくまで参考の記録にとどめるものとした。調査終了後、魚類はすみやかに川に戻した。

4.調査結果

別紙1のとおり。

5.調査考察

河川の底生生物調査では、環境省が定める「川の生きものを調べよう 水生生物による水質判定」に基づいた水質階級の調査を行った。その結果、コガタシマトビゲラ類やヒラタドロムシ類等が多く採取され、判定は「ややきれいな水（水質階級Ⅱ）」であった。また、正式な指標ではないが、参考としてタニガワカゲロウ類等も多く採取されたことより「きれいな水（水質階級Ⅰ）からややきれいな水（水質階級Ⅱ）」にあたる結果であった。また、昭和 58 年から 60 年にかけて今回測定を行った城前橋で生物調査が行われており、その時の結果と今回の調査結果を比較した。昭和 58 年から 60 年にかけては、セスジユスリカやイトミミズの一種が多く確認された。水質階級は、とてもきたない水（強腐水性（Ps））であり、今回用いた「川の生きものを調べよう 水生生物による水質判定」に基づいた水質階級で評価を行うと、「とてもきたない水（水質階級Ⅳ）」にあたる結果であった。

今回の底生生物調査の結果では、「きれいな水（水質階級Ⅰ）からややきれいな水（水質階級Ⅱ）」にあたる結果であったことより、約 30 年前に比べ大幅に水質が改善されたと考えられる。水質が改善された主な理由として、下水道の整備が進んだことや、浄化技術の進歩、時代の変化に伴う環境保全への意識向上といったことがあげられる。

魚類調査では、調査地点周辺に生息する魚類の種を把握し、その結果を基に調査河川の水質評価を行い、今後の政策に反映させていくことを目的とし調査を行った。

今回の調査では 2 目 3 科 8 種の魚類が確認された。そのうち重要種としてドジョウ（環境省 DD）、シマドジョウ（埼玉県 NT）、スミウキゴリ（埼玉県 NT）、ウキゴリ（埼玉県 DD）の 4 種が確認された。また、今回の調査で直接採捕できたものではないが、調査地点付近で釣りをしていた方々に話を伺うと、この調査地点でアユや、ヤマメ、ボラなども釣れるとのことであった。

今回確認された種はいずれも近隣市の河川（新河岸川、黒目川、越戸川、霞川等）で確認されている種類であり、今回の調査地区の魚類相と違いはない結果であった。

単年度の結果だけでは、河川の水質評価を行うことができないため、目的達成に向け今後も引き続き魚類調査を行っていく必要があると考える。

6.参考

別紙3に写真票